**第15回前橋市産業振興ビジョン協議会　議事録**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 産業振興ビジョン協議会 | 令和１年１２月１８日（月）１０：００～１１：１０ | 前橋市役所３階　31会議室 |
| 出席者 | 委員足立委員、阿部委員、今村委員、加藤委員、狩野委員、唐沢委員、鈴木委員、向田委員、茂木委員、吉田委員、増田委員、宮崎委員、西巻委員事務局関産業経済部長、木村産業政策課長、関口課長補佐、茂木課長補佐、粕川課長補佐、にぎわい商業課　細井課長補佐 |
| 欠席者 | 五十嵐委員、植木委員、魵澤委員、唐沢委員、中島委員、橋本委員、吉澤委員 |
| 議題 | １　開会２　委員長挨拶３　議題　　　次期（令和２年度版）産業振興ビジョンについて４　閉会 |
| 配布資料 | ・次第・協議会名簿・資料　第14回産業振興ビジョン協議会における発言に対する本市対応内容・資料　前橋市産業振興ビジョン（新旧対照）・資料　次期産業振興ビジョン（原版）・資料　次期産業振興ビジョン（概要版） |
| 会議内容 | １　開会木村課長　これより第15回前橋市産業振興ビジョン協議会を始めます。まず、委員の交代がありましたので報告いたします。推薦団体の連合群馬・前橋地域協議会議長の交代がございまして、新たに唐澤さんが議長に就任されましたことから、唐澤さんを新委員として推薦をいただいております。唐澤さんは本日欠席となっておりますが、報告をさせていただきます。それでは、吉田委員長よりごあいさつをお願いします。吉田委員長　おはようございます。先日、12月２日の新聞ですけれども、中小企業庁が中小企業政策の見直しをするという記事が載っておりました。内容としては大企業と中小企業が共に成長するという政策を検討するとのことです。今日は、前回会議の意見を基に修正されたビジョンを皆さんに確認いただきますので、活発なご意見をお願いいたします。木村課長　続きまして産業経済部の関部長よりあいさつを申し上げます。関部長　年末のお忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。今日は、先ほど委員長さんから話がありましたように、前回の協議会では委員からいろいろな意見をいただきました。ご意見を極力反映させたいと考えています。ビジョン内容を説明していく中で、さらに足りないところ、気付いたところがあれば、忌憚のないご意見をいただいて、３月に確定版を公表する形にしていきたいので、よろしくお願いいたします。吉田委員長　それでは、議題の「次期産業振興ビジョン」について、事務局より説明をお願いします。関口係長　皆さまには資料１～４をお配りしております。資料１は、前回のビジョンで各委員の皆さまからいただきましたご意見に対する対応方針を記載しております。資料２については事前に変更箇所への意見書を送付させていただきましたが、現時点でご意見はありませんでした。資料３および資料４についても事務局の説明の後にご発言いただけたらと思います。　まず、今回のビジョン改定における前提として、計画期間を今までの「３年から５年へ変更」したいと存じます。なお、ビジョンの理念で掲げております基本目標の「産業を目指す姿」と「４つの戦略」などの根幹部分について、経済情勢の大きな変化等があった場合には、半年に一度、委員に協議会において意見をいただきながら修正していきたいと考えております。なお、既に産業ビジョンがある自治体では、さいたま市は７年間、長野市は５年間で、水戸市が９年間というビジョン期間になっております。宇都宮市はビジョン期間は10年間ですが、５年に1度見直しする形です。また、ビジョンの基本目標である「選ばれる前橋を実現するものづくり都市」などは、企業で言う経営理念の位置付けであり、今回の改定ビジョンにおいても引き続き使っていきたいと考えております。　次に、資料２の説明を致します。戦略１は、小規模事業者に特化した伴走型支援が求められているという旨のご意見がありまして、戦略１－⑥に、その内容を追加させていただきました。具体策としましては、小規模事業者に対する資金繰りの支援や補助メニューの優遇のほか、商工会議所等の支援団体との定期的かつ密接な情報交換などを行って、課題抽出および施策の展開を今後とも図っていきたいと考えております。　また、市の単位では財源や人的資源に限界があることから、国や県の支援施策を活用するべきというご意見がありました。これも、戦略１－⑦に追加をさせていただきました。具体策としては、国・県および各種支援機関と定期的な情報交換を行うことにより、事業者向けの支援メニューを整理します。例えば市庁舎内でも勉強会を開いて、支援メニューの情報共有を行った上で、事業者を支援していきたいと考えております。　戦略２に入ります。前回の協議会で製品開発にかかる支援策について、補助事業だけではなく、各種支援機関と連携した支援策について検討すべきというご意見がありました。現在、御用聞き型企業訪問により、前橋商工会議所さまや前橋工科大学さまと連携して、案件によっては各種支援機関の利用や、起業家のマッチングを進めております。製品開発、技術開発において各支援機関との連携は必要不可欠と考えており、戦略２－①に連携について記載をさせていただいております。　次が戦略３になります。現行ビジョンにおきましては、市外企業の誘致の促進をうたっておりましたが、今回の改定ビジョンにおいては、市外企業の誘致に加え、ご指摘がありました既存企業の市外流出を防ぐために、操業環境や事業拡張にかかわる支援にも取り組んでいきたいと考えています。そこで、「企業誘致」でなく、「企業立地」という目標に変更をさせていただいております。　戦略４に進めさせていただきます。本市の創業支援につきましては、創業支援センターのさらなる活用を踏まえ、創業者に対する支援施策を積極的に進めております。また、今回のアンケート結果から、特に「事業承継」が大きな課題というご意見もいただいておりますので、４－②に盛り込みました。ただ、本市単独での事業承継課題に取り組むことは非常に困難であるという認識がありますので、群馬県事業承継ネットワークなどの支援機関と一体的に取り組んでいくなど、連携を今後強化していきたいと考えております。群馬経済研究所　平成29年度版ビジョンと今回のビジョンの主な違いをお話しさせていただきます。まず１つ目に挙げられますのが施策の方針です。戦略１の１－⑥、１－⑦とで、「商工会議所・商工会と連携した小規模事業者等の伴走型支援」と「国や県等の支援メニューを活用した中小企業・小規模事業者の包括的支援」の２項目を追加しております。今回は事業者と支援機関の連携・情報交換の大切さがかなり強調されているビジョンになっているかと思います。また、ビジョン期間を３年から５年に変更しております。　２つ目は産業支援制度の効果的なPRの必要性を提案しております。具体的には「効果的宣伝PRの実施」という項目を設け、産業施策の効果的な伝達手段・方法の必要性をうたっております。　３つ目は、今回は手前ども、地元シンクタンクである群馬経済研究所に依頼していただきましたので、地元シンクタンクの機動性を活かして、アンケートを補強するために12先もの事業者とヒアリングを実施しました。それによって実際に前橋市で活動している事業者さまの生の声をビジョンに掲載できました。また、３章の「我が国をめぐる社会環境の変化」において、最近話題になっております外国人労働力の活用など、４つのトピックスを追加しました。以上の３つが前回ビジョンとの大きな変更点でございます吉田委員長　ご意見がありましたらよろしくお願いします。阿部委員　事前資料のものと表現が違っていたので確認しますが、戦略２の目標数値ですが、事前資料は「製造業の製品出荷額」という表現を使っていたのが、今日の資料を見ると、「製造業の粗付加価値額」に変わっていますが、どっちが正しいのでしょうか。関口係長　申し訳ございません。「製品出荷額」は間違いで、正しいのは「製造業の粗付加価値額」です。阿部委員　また、戦略４の②のところに「起業・事業承継」を入れてあるのですが、私ども保証協会としても、引継ぎ支援センターと連携を図っておりますので、ぜひ保証協会も忘れずにご活用いただきたい。関口係長　承知しました。その際はぜひご協力をお願いしたいと思います。足立委員　企業立地のところですが、群馬県の企業立地実績は非常にいいというイメージを持っておりますが、現行と目標値を比較しますと、前回が10件で、今回が５件ということで、単純にトーンダウンしたと感じます。この５件という数字について、補足のご説明をいただければと思います。茂木室長　前回目標の10件というのは、ちょうど五代工業団地の拡張事業があり、そちらへの企業立地が進むだろうという予測がありました。今回、西善・中内周辺の産業用地と駒寄インターチェンジ周辺の２カ所で工業団地の拡張を進めているところですが、現実に即して５件というところが妥当かなと考えております。足立委員　ただ、今回は期間も３年から５年へと長くなっていますので、ちょっと保守的なのかなと感じています。事務局　そうですね。先ほど西善・中内と駒寄で進めているということは申し上げましたけれども、特に駒寄のほうが少し時間がかかることもあって、実際には西善・中内にプラスαというイメージを描いていました。向田委員　今回は、文言を「誘致」じゃなくて「立地」に変えています。「立地」ということになると、既存企業の持っている敷地を他の企業が買収をして立地した場合も、企業立地動向調査では「立地」になります。それもカウントすると、５件というのはあまりに低い数字という感じがします。「誘致」であれば、新しい土地がなければ誘致できませんから、目標数値はそうだろうと思います。ただ、前橋の規模であれば当然ある程度「立地」でカウントできるはずなので、その辺りはいかがですか。茂木室長　そうですね。既存の企業が市外へ転出するとかで用地ができまして、そこに新しい企業が立地するという動きというのは、結果的には出てくると思われます。木村課長　まだ計画期間を３年にするのか、５年にするのかというのがまだ見えてなかった段階で５件と掲げましたが、期間５年間の前提で考える必要があります。また、ご指摘がありましたように、企業立地という広い概念で捉えることになりますと、５件ではやや甘えているという印象もありますので、団地拡大の進捗度合とかも見通しながら、やや背伸びをするような数字を掲げられるかをもう一回考えてみたいと思います。足立委員　市内で空き物件があるわけですから、そういう物件を含めた目標で良いということで、「産業適地等への立地件数」にされたと思うので、もう少し目標値は上げられるかもしれない。茂木室長　もう一度精査し直しますので、ご理解いただきたいと思います。吉田委員長　立地件数だけではなくて、立地面積も目標として入れるように市にもずいぶん要望してきました。やはり基幹産業、例えば日立製作所とか東芝とか、そういった大企業の本体は無理でも事業部が一つでも来ると、我々がその仕事をすることで、技術レベルがぐっと上がります。大企業が来れる規模の面積を準備して誘致してもらいたいと思います。市内企業が市内で移動しても、売上が伸びないので、そういうことも考えてもらいたいと思います。茂木委員　２点お願いしたいことがあります。起業家創出と人材育成で、前橋市の創業支援制度を活用して創業した事業者が、商工会の支援制度のお世話になることが多く見られます。創業した後の「育成」という面で、商工会さんの支援があるということの記述があると、創業者の育成の面でもいいかなと思いました。もう１点ですが、効果的宣伝、このビジョンの宣伝についてなんですが、まだ間に合うようでしたら、アンケートでこういう意見が出たということだけではなくて、具体的な取り組みを提示していただいて、計画の実行段階で確認していければ、さらに効果的に取り組めると思います。群馬経済研究所　ヒアリングにおいて、手前どもも産業政策課の方と一緒に、富士見商工会さん、東部商工会さんと非常に密な話し合いをさせていただきました。市の職員がすべての事業者に直接会うにはどうしても物理的な限界があり、そうであれば、事業者に実際に接している商工会の方と綿密に情報交換をしたほうが、本当に役に立つ施策になるんじゃないかとの意見をいただきました。具体的にどういった形になるかはまだわかりませんが、ご提案みたいな形で挙げられたらいいなと考えております。今村委員　戦略１－⑦の「国や県等の支援メニューを活用した」という文言ですが、具体的には国のどういう省庁のどんなプログラムがあって、予算規模はどれぐらいのものがあるのかっていうことが見えていません。このビジョンの策定期間中に活用できるような支援メニューとしてはどんなものがあるのかというようなことが、見えると良いと思います。プログラムを活用するためには、つまり国や県の補助金を取るためには、かなりしっかりと杭打ちをしないと取れませんので、どこがどういう活動をしてどういう支援メニューを用意しているのかというのがもう少し見えると良いと思います。関口係長　このぐらいの時期に、国から来年度に向けた産業支援はこういうことをやっていきますというメニューが来ます。それに対してしっかりした計画や目標（目標値）等を立てて準備しろということです。政策推進課と現在調整をしておりますが、前橋市も財政が厳しい中、取れる補助金は取ってやろうという勢いは結構ありますので、その目標値を一生懸命作成しております。今村委員からお話があったように、我々も国からのメニューをしっかり見て、市内事業者にどう還元できるのかを考えていきたい。ただ、具体的なメニューを提示する段階に達していませんので、ご承知おきいただきたいと思います。加藤委員　戦略１の目標数値の就労者数なんですけれども、現行の「年100人」が、「年700人」に変わった背景を、ご説明いただきたいと思います。粕川係長　「100」から「700」に変わった経過ですが、こちらの700という数字が、平成30年度のジョブセンター前橋で就職が決定した人数となっております。それをベースに今回の目標値に変更をさせていただきました。狩野委員　私は単純にお礼を言いたい。戦略１で２つ挙げていただいた小規模事業者支援の内容に感動しております。これが実際に進みますと、非常に大きく、いろんな意味で変わってくる気がします。ヒアリングのときにもお話しましたが、小規模事業者は、事業規模は小さいですが、数があります。大勢の小規模事業者の声が聞こえるようになると、市政が非常にやりやすくなる気がします。小規模事業者支援は、大規模な予算になるとは限りません。補助金をたくさんくれるといっても、自己負担もあるので限界があります。財政上はそれほど大きな負担をかけずに、大勢の小規模事業者が喜ぶ行政ができると思っております。こんな形で進めていただくと、元気な前橋が生まれると思っています。唐澤委員　先ほど加藤委員からありました、就労者数の７倍という根拠もわかりました。やはりここに掲げている「連携」とかですね、そういった部分とか、国や県のメニューの連携というのが、ビジョンとしてできても、今後それがどう実行されていくかというのがすごく大事な軸になると思います。特に支援メニューというと、予算がどうとかになりますが、実際にどういう行動が出てくるかということになりますので、一緒にまた考えていければと思っております。鈴木委員　ビジョンを拝見して、戦略１や戦略２における中小企業や小規模事業者との包括的な支援など、私どもを含めた各種支援機関さんとの連携ということですが、横串を刺すような感じで引っ張っていただけると相乗効果が出てくると感じています。普段感じていることで、私どもの産業技術センターでやっていることを企業さんはあまりご存じないということがあります。事業者は自分の困っていることを、どこに相談すればいいのかわからないのではないかと思います。ちょっと敷居が高いと感じている企業さんもいっぱいおりますので、どうやって新しい事業者に利用していただくか、つまり、すそ野を広げていくところが大事ですし、アンケートで産学連携を行っている事業者の割合が10％にとどまっているっていうところも、おそらくその辺のことがあるのかなと思います。ですから、成功事例みたいな「こんなことをやったら、こんなふうにうまくいきましたよ」というところを地道にPRしていくということで、産学連携、産官学連携を進めてまいりたいと思っております増田委員　だいぶ要望を取り入れていただきましてありがとうございます。全体を通して感じましたのが、2025年になりますと、団塊の世代の方が75歳の後期高齢者になられて、４人に１人が高齢者という超高齢化社会が訪れるというのは、ご承知のことかと思います。、このビジョンの期間が５年ということで、このビジョンをまた刷新するといったときは、日本の人口もさらに減っていますし、人口構成も変わっている。そうすると、ものづくりの状況もだいぶ変わっていると思います。今回はその状況にバトンタッチするところの非常に重要なビジョンになると考えます。そうしますと、例えば2025年に対応する準備みたいなものもここで必要になってくると思います。企業誘致も、委員長がおっしゃられたように、やはり大企業に来てほしい。やはり頭となる企業が欲しい。我々小規模事業者もそこに携わる仕事が欲しい。創業者支援ということで、お金をかけていろんなことをしているわけですが、前橋市で5Gに関係する事業をやる、うちが日本で一番の市町村だぞという名乗りを上げられるチャンスがあるわけです。そこで5Gに関する企業をどんどん前橋に誘致するということも一つの戦略じゃないかと感じます。今、国のほうでも5Gに関する減税措置をやるとも聞いておりますので、そういったこともチャンスと思います。5Gを担うのは大きな企業に限らない。例えばSuicaを開発したところは、私ども中小企業家同友会の渋川の企業がJR東日本に売っているとか、あそこは本当に10人足らずの会社でやっています。そういう企業が全国にある。それを前橋でいろいろな5Gの実証実験をやりながら、まちなかに来ないかいというのも、すごく魅力的な内容だと思います。前橋だからこそ、企業誘致がどんどんできる分、それをまちなかに持ってきてもらいたい。我々事業者はずっと前橋に携わるわけです。前橋市の市長や職員が変わったとしても、このビジョンは揺るぎないというものを一つ作っていただければありがたいと感じました。群馬経済研究所　国も今度、ローカル5Gを進めていきます。前橋市はご存じのとおり、情報通信関係技術の活用に積極的に手を挙げている実績があります。また、GAFAなども元は本当に小さな企業からあそこまで世界的に大きくなったという事実があります。何がきっかけになるかはわかりませんので、群馬発のそういうGAFA企業が育てばいいと思います。どういう形で文言として盛り込むかがなかなか難しいところがありますけれど、貴重なご意見として承りたいと思います。宮崎委員　拝見させていただいて、立派なものができ上がったなと思っています。アンケートにもありますが、産業振興ビジョンについて、名前を聞いたことがあると知らないというのを合わせると、実質的には94.1％の方がその存在自体を知らないということに一番課題を感じております。まずは多くの方に知っていただいて、これに対する意見を多くの方からいただくということで、もっともっと良いものになっていくと思います。また、GAFAをはじめとして、これから無形資産型の企業といいますか、そういったものを日本でも育てていくことが急務になってくると言われていますけれども、そういった中で、戦略４の起業家の創出と人材育成というところが、私としては非常に重要なのかなと感じております。聞いてみたいと思うのが、目標数値の創業支援計画による創業者数の122人、前橋市創業センター利用者数2,000人ということで、こちらをお決めになった背景みたいなものがわかれば、ありがたいと思います。関口係長　ご質問ありました創業者数や利用者数についてです。国に創業支援者計画を提出している中で、国に対して報告している内容に関係した数字となっています。担当がいろいろな過去の実績を踏まえたりとか、創業センターにつきましては、指定管理制度を来年度から前橋起業支援センターさまのほうが担って、独自の計画を立てて利用者を増加させていただくということで、それなりの計算のある、根拠のある数字でこういう形にさせていただいております。西巻委員　一つは、周知の仕方というのが一つ大きな問題になってくるのではないかと。本当に専門家とかそういうのも全て除いて、本当の一市民として考えたときに、じゃあこのビジョンの文章を読んだときに、具体的にそれが想像できるかといったら、ちょっと厳しいところがあります。例えば、介護とか、子育てとか、そういったところに問題があって就職できない方、そういった方が、このビジョンの戦略を読んだときに、自分はどこに当てはまるかってわからないのではないでしょうか。ビジョンは対企業なのかもしれないけれども、働くのは市民なんじゃないのかなと思いました。ビジョン案としては非常に素晴らしいものなので、これをどうやって周知していくかということが課題になってくるのではないかと思います。関口係長　確かに今のご指摘からしますと、どうしても対企業さま向けのという形になりますので、市民の方として、一市民として、これを読んでもなかなかご理解いただけない。我々としては、まずは企業さまに内容をご理解いただき、前橋市としても前橋市内の企業さまと同じ方向を向いて、今後進んでいきたいという形、先ほど冒頭で部長から話があった羅針盤という位置付けにしていけたらと考えております。　周知につきましては、どうしてもインターネットで、ホームページによる周知だとか、広報誌でも周知させていただきます。載せても何のことやらと、見ない方もいると思います。しかし、特に企業さまにご理解いただきたいので、まだ決定ではないんですが、商工会議所など大きな会場を借りて、市内企業さまに前橋市の補助金など来年度に向けた施策の説明を併せて、会を開催したいなという計画もあります。　周知の話についてはどうするのか。ただネットに出すだけじゃ駄目ということで、庁内でもいろんな意見が出ております。具体的にやるのはいつなのかとはまだ言えませんが、我々もそのつもりで動いて行きますので、ぜひ今後もご支援、ご声援をお願いしたいと思います。足立委員　この概要版というのは、どのように使おうという予定のものでしょうか。この10ページぐらいの薄いものですが。一緒に、市民の方というか、企業の方に配ろうとしているものですか。関口係長　目標の戦略など、ビジョン本編からピックアップさせたものが概要版に記載されています。やはりこの厚い冊子ですと、なかなか全部は見られませんので、企業さまのほうには、この概要版でお配りをさせていただく予定です。足立委員　例えばこの概要版を見て、後半に施策、４つの施策、１、２、３、４ってありますけれども、この下のほうがみんな空欄になっているので、例えばですけれども、この厚い本紙のほうを見ると、施策の下に主な取り組みというのがそれぞれみんな入っているので、例えば小口資金による資金繰り支援だとかも抜粋して、「主な取り組み」として入れるほうがいいのではないですか。先ほどの意見もそうなんですけれども、読んだだけで浮かばないというのがあります。「施策というのはこういうのがあるんだな。じゃあこの補助金というのは何かな」と思い浮かんだらサポート版にいくという、流れをつくってやったほうがいいかなという意味で、具体的な取り組みをいくつか入れたらいかがかなという意見です。関口係長　おっしゃるとおりだと思います。あくまで目標だけで、具体的にじゃあ何をするのかとか、そういったところが見えないというのがあります。足立委員　ビジョンは理念中心になるかもしれないけれども、そうは言っても、いかに使ってもらうかとか、施策をお示しするというのが大事だと思います。関口係長　わかりました。貴重なご意見、ありがとうございます。反映させていただきます。増田委員　今の概要版についてなんですけれども、前回作っていただいた概要版、中小企業家同友会のほうでも、前橋支部と渋川支部で検討させていただいて非常に良かったんですけれども、見た目が非常に硬いですね、なかなか読みにくい。できれば、「ころとん」のイラストでも入れて、軟らかくしたほうが良い。できれば漫画化して説明するとか、こんな方向で前橋市は考えているんだ、というのを描いていただけるとありがたい。文字で見ると、人によって違う方向を考えてしまう。そこがあると、もっと活用しやすいかなというふうに、前回の資料を見て感じました。また、委員の名簿は載せなくてもいいのではないですか。関口係長　貴重なご意見ありがとうございます。確かに硬いなあと。皆さんが手に取って見やすいという点では、確かに絵とかで、まずわかりやすく解説したい。それは反映させていただけたらと思います。　名簿の件ですが、委員の方たちが皆さんで考えていただいたものですと示したい。市が勝手に考えたことではなく、皆さんのご意見をいただきましたと。本当にこの方向に向かっていくために、各専門の方に集まっていただいて、こういう意見を反映させていただきましたという点で、ぜひご紹介させていただけたらと思いますので、そこはご承知いただけたらとありがたいなと思います。増田委員　小さくね。関口係長　わかりました。向田委員　連携が今回、非常に強く前に出せて、ありがたかったなあというふうに思います。また、前回の協議会で皆さんから出た意見を丁寧に拾っていただいて、それを中身に反映させていただいているというので、素晴らしいものになったと感じております。ビジョンの周知って難しい問題で、ビジョンを読む市民がどれぐらいいるかっていうのは常に悩ましいところだと思いますが、中小企業の皆さんは、何か自分のところで課題とか問題が起こったときに、「さあ、どうしよう」と考えるのだろうなと。そのときに、「こういうことがある」という細かい中身、例えばビジョンの本編を読むよりも、どこに相談したらいいのだろうかというので、一番最後のページでもいいですから、相談先はここだよと、まず何かあったらここに相談しろというのを載せてあげるほうが親切だと思います。そのほうが「この支援機関に電話してみよう」という繋がりで広がっていくと思います。　私ども産業支援機構でも、周知されているかどうかというと、たぶん知っているのは３分の１、４分の１ぐらいの企業さんしか知らないはずなので、ほとんどの方は知らないです。ただ、問題があると来てくださいます。それが実際の企業の動きかなというふうに思っています。　あとは、アンケートで非常に丁寧に、自由記載でいろんな意見を書いてくださった方がたくさんいて、またそれを丁寧に拾って、ここに反映させていただいたというのは非常にいいことだなと思うんですけれども、書いたのに施策に反映させたのかなという人も当然出てくるので、具体的な施策の中で、その辺は可能な限り反映をさせていただいて、そういった意見にも応えられるようにしてあげたらいいなと。　最後に目標値（KPI）に関して、KPIの目標数値で「製品開発にかかる予算計画達成率」というのがあるが、ここだけ何か非常に違和感がある。これだけ予算を使いましたというのを目標に掲げるのがどうなのかなと。「採択基準を下げれば、こんなもの達成できるぞ」というふうに思い、そこだけがちょっと気になりました。関口係長　そうですね。達成率というのは、ある意味で行政的な予算消化みたいなイメージになってしまいますので、前回のとおり90件という件数も候補にありました。ただ、件数を目標にするのであれば、実は予算的に全然足らないです。しかも現行で、平成31年の予算が1,700万円で、もう1,600万円活用させていただいているんですが、残念ながら来年度はちょっと減らされて、予算がなかなか増えない状況です。　予算が増えれば、先ほどのこの目標の数値にはいくかなと思われておりました。ただ、残念ながら予算がいただけません。さまざまなサポートをしたいと思っていますが、与えられた予算の範囲で開発案件とか様々な悩みの部分を解決するための目標値という位置付けにしたいと思っています。　ただ、普通に外から見ると、役所の予算達成だけなのかっていうふうに、我々の思いが伝わらないものですから、ちょっと言葉をもう少し考えてみたいと思います。吉田委員長　ありがとうございました。特になければ、議事を終了します。ありがとうございました。関口係長　本日皆様からいただいた意見を基にあらためて修正をさせていただきます。１月には、パブリックコメントということで、多くの市民の方にこれを見ていただくことになります。そこが最終的な締め切りになりますが、次回の会議が開かれるのは３月になってしまいますので、メールのやりとりという形や、直接電話をいただいても結構ですので、ご意見がありましたらお願いしたいと思います。　次回の会議はパブリックコメントの後、３月の上旬に開催する予定となっております。日程につきましてはですね、あらためて別途、ご案内させていただきます。本日はありがとうございました。 |